

# 釜ヶ崎 1987年越冬



協友会  
通信12

釜ヶ崎キリスト教協友会

# 釜に捧げるラード

1. この大阪の夜空に どれど星が輝くように ザ・ハイバンド  
 マミシが匂うイカイの朝に チャンゴ<sup>シンカク</sup>たたいて 身世打争がひびく  
 一緒に泣いてくれたなら 一緒に笑ってくれたなら 誰か 糸の涙をぬぐってくれたなら  
 イレロチュリ チョユルチュリ ヘビンチュリ サランチュリ  
 (名前も下さい) (自由も下さい) (解放下さい) (愛も下さい)  
 チョビヨルド オアシ トンファド オアシ ブランオアシ チムド オアシ  
 (差別もなく) (同化もなく) (分断もなく) (指紋もない)  
 だって 我達 自由になりたいんです

2. 木枯し吹き抜ける 三角公園に 釜の子供たちの 明るい笑い声か  
 越冬の炊き出しの湯気の方へ おおちゃんたちの 深いシワが見える  
 一緒に汗を流したら 一緒に歩いてくれたなら 誰か おおちゃんの手を握ってくれたなら  
 オニギリ いらん! みそ汁 いらん! 毛布もほさない! あれみはいらん!  
 No more 搾取 No more 管理 No more しごき No more 監視カメラ  
 だって おおちゃんたち みんな人同士

3. ヒロシの死の灰の下から どれど緑が息吹くように  
 柀の青い海の底から じんじょうが 生かかえるように  
 一緒に歌ってくれたなら 一緒に叫んでくれたなら 誰か 大地の声を聞いてくれたなら  
 緑が繁り 太陽は輝き 澄んだ空気があふれる地球  
 No more ヒロシ No more ミナタ  
 No more 伊方 No more フェルメイリ  
 だって 我たち みんな 生きたいんです

…繰り返し…  
 No more 差別 No more 搾取  
 No more カメラ  
 No more Finger Print  
 ラララ ラララ ~ ♪



# 巻 頭 言

最低賃金九〇〇円から九五〇円への上昇、さらには四月にはいつてもまだ仕事があるという状況の中で、今年は特に労働者の顔にゆとりというものを感じられる。こういった仕事の出具合いはいわゆる、政府の内需拡大路線の結果であると思うし、まだ即断はできないが、このままの調子でいくと、思ったよりアブレ期間も短縮されるかもしれない。仕事があるという事は、釜ヶ崎の労働者にとっては良い事であると思うし、この状態がまだまだずっと続けば良いと思うが、こういう中で、一方においては、数的には少ないと言え、野宿を強いられている労働

者は厳然と存在している。そしてこういう野宿を強いられている労働者に対して、現段階で仕事に行っている労働者から、いわく「あいつらは怠けとるだけや」とか「自業自得」やとかいう声をよく現場で耳にする事が多い。言うまでもない事であるが日雇仕事というものは肉体労働であってどんなに仕事があっても体がガタガタになってしまえば即野宿に追い込まれるという構図は昔も今も変わっていないと思うし、この事は今実際に仕事に行っている労働者自身良くわかっていて、この現状。にもかかわらずこういう現状

で、野宿を強いられている労働者の問題はまったく自分達とはカンケイがない、別世界の問題であるという感じを受けるし、仕事があるという事がますますそういった気持ちに拍車をかけていると思う。自分自身の釜ヶ崎へのカカワリの中で、現役バリバリの労働者からも多くの事を考えさせられて来たわけだが、それ以上に野宿を強いられている労働者から、多くの事を考えさせられてきたし、これからは考えて行きたいと思う。仕事がある中で、どこまで野宿労働者の問題に取り組んで行けるのか？ 協友会の真価が問われる時だと思う。

も・く・じ

釜に捧げるバラード…ザ・イカイノバンド…表紙裏  
第18回釜ヶ崎越冬活動を終えて …… 2

'87~'88 協友会活動報告	
「なんで」夜まわりを ……	8
●月曜夜まわりの会	
木曜夜まわり学習会 ……	10
●木曜夜まわりの会	
活動の積み重ねが大切だ ……	12
●金曜グループ	
「なんで夜まわりするの」の歌 ……	14
●土曜夜まわりの会	
'87 越冬期の死者を追悼する ……	16

釜ヶ崎冬のガイド1988 ……	18
釜ヶ崎越冬日録 ……	6
3.13 協友会越冬活動総括集会 ……	22
大阪市長候補に対する質問と回答 ……	24

寄せ場の活動から	
福岡築港に日雇労働組合が 出来た ……	26
名古屋越冬活動弾圧裁判 ……	28

●書評「ねえちゃんごくろうさん」	30
●資料	
'87.12.7~'88.3.13	
西成区内行旅死亡人一覧表 ……	32
'87 年度木曜夜まわり(釜ヶ崎、日本橋 地区、天王寺地区)状況 ……	34
協友会通信 10 ('87.12) ……	36
協友会通信 11 ('88.2) ……	37
新聞切抜き ●旅路の人 41 「子ども教室」 に再生 42 あいりん活況 43 活況の陰に結 核 44	

巻頭言 ……	1
アボジの見世打会 ……	40
週刊えっとう合冊 ('88.1.20~3.13) ……	46
協友会活動へのご支援へのお礼 ……	45
編集後記 ……裏表紙	

# あわれみの対象としてではなく

## はじめに

第18回釜ヶ崎越冬闘争も三月十三日の総括集会で一応終  
止符を打つことになりました。キリスト教協友会が支援をは  
じめて13回目です。釜ヶ崎に向けられているさまざまな偏  
見・差別に対抗するには、冬の釜ヶ崎⇨野宿者⇨夜廻り、  
そしてキリスト者の活動、とのあわれみの対象としてとら  
えることのないようにと、昨年同様四つの処点がそれぞれ  
の特色を生かした越冬でした。以下項目をおってふり返っ  
てみたいと思います。

## 釜ヶ崎の状況

### 一、増える労働者

ここ一二年の間に一万人近くもの労働者が増え、三万  
人に向って今も増え続けています。日本の産業構造が大き  
く変わってきたからです。円高不況、貿易摩擦などによる  
鉄鋼・造船をはじめとする不況産業の下請け労働者が「合  
理化」のもとに首を切られたり、中小零細企業の倒産等で  
全国的に大量の失業者が出ました。彼らの一部が「関西新  
空港」や花と緑の万国博、京阪奈丘陵の「関西文化学術研  
究都市構造」など内需拡大の大型プロジェクトをひかえた、  
大阪・釜ヶ崎に行けば「仕事がある、生活できる」と思わ  
れているからです。(P 39参)

### 二、ドヤの新築ラッシュ⇨値上げ

労働者増をみこんでのビジネスホテル風の鉄筋高層の改築・新築が続き、今までのいわゆる「ドヤ街」のイメージは払拭されつつあります。当然ドヤ代も値上がり、四〇〇円〜九〇〇円だったドヤ代も一〇〇〇円〜三〇〇〇円と約二倍三倍となりました。（協友会で緊急宿泊用に確保していた四七〇円のドヤも少しの改造とテレビをつけ八五〇円になりましたし冷暖房完備の三〇〇〇円もするところに泊まることの出来る労働者もいれば、野宿を余儀なくされる労働者も増えています。釜ヶ崎の労働者の間にも「強者」と「弱者」の区別がますますはつきりとし始めています。

### 三、高齢化↓失業↓野宿↓行路病死

例年になく暖かな冬でありました。しかし十二月十七日から三月末日までに三〇人も行路病死が出ました。警察の前で……病院の前で……昨年の倍です。一人も死なないで春を迎えたいのモットーがむなししい。

釜ヶ崎では年々高齢化が強まっており、有効手帳所持者（二万四千人強）の平均年齢は四八・二歳で五〇歳以上が約四五％、一〇人に一人は六〇歳以上となっています。が、私達が夜廻りに出合う野宿労働者、寄せ屋さん（古紙・ダンボール回収者）の大半は手帳を持っていないのもっと高くなるはずで、最近では、センター窓口求人約三〇

〜四〇％の事業所が五〇歳前後の年齢制限を設けているそうです。体は丈夫で働きたくとも雇ってくれない。七〇年万博当時はバリバリと仕事をこなしてきた人達です。そこには「物」のごとく「使い捨て」の現実があり、アブレ（失業）から野宿へと追いこまれます。そのような人々を「あいりんクリーン作戦」の名でもって公園から駅から街から行政・警察・地域住民によって「浮浪者」排除が行われました。（とくに昨年の天王寺博では、「キタやミナミに比べ、ややマイナーなイメージがある天王寺を、大阪の南の玄関口としてお客さんを迎えるにふさわしい街にした」と露骨に強制排除が行われました。）労働者からいこの場として親しまれていた天王寺公園は今も柵で囲ったまま入ることが出来ません。当然のことながら釜ヶ崎地区内から周辺部（日本橋、四天王寺）から大阪駅周辺、中之島、虹の街等へと拡散していく状況にあります。少年達に襲われる事件も続き「アオカン（野宿）するの命がけや。誰にも邪魔されん」と思ったら寝場所捜すのも大変」との声に胸がいたみます。彼らの多くは高齢の上、仕事中心でのケガで働けなくなったり、アルコール依存症、結核などで健康を破壊されています。最近の寄せ場の状況も高齢者、病弱者には無縁であります。

#### 四、急増する出稼ぎ労働者

このところにわかに、アジアからの出稼ぎ労働者の問題が注目されています。年間五万とも一〇万とも推定されています。大半が女性ですが、最近では、建設土木現場で働く男性も多く、釜ヶ崎でも労働者の話題となることもよくあります。観光ビザなどで入国して働く人が多く、その弱みにつけてまれ、長時間労働、低賃金、賃金不払いなど様々な人権侵害を受けています。国際的・国際化時代とよく言われていますが、彼らに向けられている多くの中傷・差別・偏見に直面するとき国際化とは裏腹に国粋化としていく今の日本を見ることが出来ます。そこには、今日の繁栄がアジアの民衆の犠牲の上に成り立っているとの認識は全くありません。私達キリスト者も多くの市民・労働者と共に、彼らの抱えている問題に積極的に取り組みを行わなくてはならないと思います。

#### 協友会の日常活動

##### 一、行政に対して

・第18回越冬

協友会では、越冬闘争実行委員会と共に昨年十二月三日に大阪市長、民生局に次の要望書を提出しました。(要約)

一、越冬期及び四月から七月のアブレ期対策

二、臨時宿泊体制を二千名以上に

三、市内各区福祉事務所でも臨泊受け付けの実施

四、高齢者・病弱者に長期保護対策

五、宿泊所の常設、新今宮小中学校の跡地を越冬に開放

六、「保護」・「医療」に名を借りた、悪質病院への

隔離収容・抹殺をやめよ(省略)

回答は、空しく失望でありました。臨泊には一三〇〇人の計画を予定しながら七五八人だけ受け入れ、約七〇〇人が正月の間も野宿を余儀なくされたのです。

・生活センターを求めて

四年前に閉校した新今宮小中学校の跡地利用について大阪市教組など教育関係者・保護者・労働者と共に、釜ヶ崎に新しい思想と文化を生み出す拠点として、緊急の一時宿泊所。青少年に「若衆宿」を提供することによって、傷を負う仲間が共に生活し、話し合う場、子どもと労働者の交流の場など釜ヶ崎に住む人達が文化的欲求や娯楽を気軽に充足できる場となるように市教育委員会、民生局などと交渉を継続中です。私達の望みとはほど遠いが昨年七月に子ども会として部分的に門を開きました。(P38参)

## ・野宿者排除について

大阪市は天王寺・阿倍野・浪速・西成四区を〃環境浄化重点区〃と位置づけ、排除方針を明らかにしてきました。昨年の特に天王寺公園での博覧会の為、露骨に現われました。土木局・公園局に対して、・野宿の現状を認め、野宿者・寄せ屋さんの生活実体を認めるように、・人権と生活への配慮、・やむを得ず撤去を求めるための手続きとして福祉機関・労働機関との協力などを交渉してきました。

## 二、地域において

協友会一一のグループがそれぞれの特色を生かした地域との関わりを持っています。月曜・木曜の年間を通しての夜廻り、金曜日の昼間でのパトロールなどによって野宿労働者の実態をより把握するとともに、一人一人とのつながりを深め、医療生活相談に応じることの体制作りを強化しています。昨年は梅雨期の三ヶ月と越冬期の四ヶ月で一〇三〇人相談受け付けがあり、内二六〇人が入院、一三五人が入寮、二〇四人が通院となりました。入院先は大府全域はもちろん和歌山方面の二三ヶ所にも及び、病院訪問も大きな活動の一つです。釜ヶ崎の労働者で経営が成り立っている病院も多く、病気を直す為の入院が検査・薬づけによって悪化するのです。医療の名を使った商売であり、患

者は商品とされています。力不足で充分とはいえないが面会活動をもっとち密に行うことによって病院改革と一人一人の退院後の生活をどうやっていくかを考えていきたいものです。協友会として福祉貸付金制度を設け、アパートの権利金を貸付けすることによって、退院後の生活不安が少しでもなくなるよう協力しています。子どものこと、アルコール依存、結核、労災……大きな課題が山積されています。先の長い、地道な活動が要求されています。

## むすびー人を人として

三月十三日総括集会を喜望の家で行いました。越冬後の課題（梅雨のアブレ期）などについて、労働福祉センター職員の有村氏の意見を聞きました（P22 にシスターOがくわしく書かれています）。今回の越冬は運動が広がりをみせ、子どもの里の夜廻りを通して学校の先生方も参加して下さったり、生野の和解の家とも交流がつづいています。アジアからの出稼ぎ労働者の問題を考える会も六月十九日に正式に「アジア・フレンド」として発足することになりました。

最後に、いつも物心両面から様々な援助をいただき心からお礼を申し上げます。皆々様の多くの善意でもって協友会の活動が運営されています。今後とも引き続き協力をお願いいたします。

一九八七年

10月3日	医療連合宿
4日	第3回六・二弾庄公判
8日	越冬小委員会
10日	アジア出稼ぎ労働者を支える会学
18日	習会
24日	協友会合宿
11月2日	医療情報会議 於希望の家
4日	医療連対民生局申し入れ
5日	11月の市内取り組みについて
6日	医療連・放出病院訪問
7日	生活センターをつくる会・対市交渉
8日	医療連・対大阪府交渉
11日	精神医療について
12日	反天博実行委員会・総括ピラマキと集会 参加60名(子供40名)
13日	1名不当逮捕 負傷1名
15日	協友会例会
11月第2回協友会例会	越冬に備えて例会は月二回になる
11月第2回協友会例会	越冬準備会会議
11月第2回協友会例会	第4回六・二弾庄公判
11月第2回協友会例会	第18回越冬準備会
11月第2回協友会例会	協友会に対しては夜廻り、医療活動への協力要請

11月17日	反天博実会議
18日	大阪市長選候補3名(西尾・中馬・斉藤)に協友会より《市内野宿者についての根本対策》に関する公開質問状を出す
20日	大阪府路上調査
25日	医療連・医療相談(天王寺区) ゆんたんざ沖繩上映会 参加60余名 於子どもの里
27日	反天博実・21世紀協会・大阪市公園局訪問
29日	第18回越冬実・第2回実行委会議 急救医療講習会 主催・越冬実 於市民館
12月3日	医療連・医療相談(浪速区) アジア出稼ぎ労働者問題学習会 於ふるさとの家
6日	第18回越冬実・大阪府労働部に申し入れ
12月15日	協友会例会
12月15日	於部落解放センター
12月15日	越冬実・民生局交渉(要望書を提出) 民生局はこの要望書に対して95パーセント拒否を表明
16日	生活センターをつくる会・対市交渉(民生局・教育委員会) 西成子ども教室は今後もこれまで通り
18日	民生局の構想としては跡地を病者、障害者の施設として利用の予定
20日	京都・第3回越冬決起集会
23日	協友会・クリスマス会
24日	名古屋越冬裁判・判決公判
25日	名古屋第18回越冬闘争総決起集会
26日	阪奈病院クリスマス会
28日	反天博実・救済対策学習会 主催越冬実 於市民館
28日	反弾庄・救済対策学習会 於三角公園
28日	第18回越冬突入集会 於三角公園
28日	子どもの里・部落解放同盟矢田支部子供会との交流もちつき大会

釜ヶ崎の冬 一九八七年〜八八年日録



12月29日	主催越冬実 於旅路の里 大阪市の越冬対策・無料臨時宿泊 所受け付け始まる
〓30日	定員一三〇〇名のところ入所七 〇〇名弱
31日	越冬セミナー 参加者16名・オブ ザバー9名 テーマ「釜ヶ 崎から生命を考える」
一九八八年 1月1日	越冬実主催「越冬祭」のど自慢大 会・卓球大会
2日	もちつき大会 映画会（フーテン の寅さんシリーズより）
3日	ソフトボール大会 映画会（ゆん たんざ沖繩）
4日	協友会例会 越冬実対大阪市抗議デモ 参加 一五〇名
6日	協友会夜廻り連絡会議 於喜望の家
7日	越冬学習会「仕事・行政・新空港」 主催越冬実 於市民館
8日	精神医療講座「釜ヶ崎とケタオチ 病院」 主催越冬実 於市民館
10日	越冬実主催・越冬闘争終わる
11日	協友会越冬活動開始（夜廻り手帳 五〇〇部発行）

13日	医療連・広崎病院訪問（病院外で 鉄格子ごしの面会しかできない）
16日	越冬実パトロール班総括会議
17日	協友会例会
20日	越冬実第1回総括会議
24日	アジア出稼ぎ労働者を支える会・ 学習会 於ふるさとの家
26日	中之島周辺夜廻り（天満教会）
2月7日	協友会越冬中間報告集会 笹島診療所の山本拓氏の発題 於ふるさとの家
8日	第6回六・二弾庄公判
21日	協友会例会
23日	生活センターをつくる会対市交渉 大阪市の跡地利用についての大 枠
3月2日	①教育委員会↓従来通り子ども 教室を二階でつづける、とく に変更なし ②民生局↓労働者の収容施設を つくる ③市民生活局↓地域の人々が自由 に使える場所を一階に確保する
13日	第7回六・二弾庄公判 協友会越冬総括集会 カマヤンの著者・ありむら氏の

3月25日	話、在日大韓キリスト教会青 年たちのバンド演奏・子どもた ちの報告劇等 参加者一〇〇名 於喜望の家 生活センターをつくる会・対市交 渉
27日	医療連・対市環境局交渉 アジアフレンド学習会
28日	子どもの里等、土曜夜廻りグルー プで今冬期、釜ヶ崎周辺での行路 死者30名の追悼行動 協友会合宿
4月10日	各グループの報告・書記・会計 各活動担当者の選任
〓11日	参加24名 於売布黙想の家